



ISEKI & CO., LTD.

# 2019年12月期 第1四半期 決算説明会

代表取締役 社長執行役員 富安 司郎

2019年5月16日



1. 2019年12月期 第1四半期業績の概要
2. 国内外市場の動向
3. 2019年12月期 業績予想
4. トピックス

## ■ 2019年12月期第1四半期実績

### <前年同期比>

売上高 : 国内) 前年同期に大型施設工事があった反動により減少  
海外) 北米・欧州堅調も、中国・アセアンが現地在庫調整により減少

営業利益 : 減収による粗利益の減少はあるも、前年にあった一時的要因がなくなり利益率改善。販管費削減もあったが△2億円

### <計画比>

国内売上高未達も、販管費の削減等により収益はほぼ計画通り

## (説明のポイント)

### ■前年同期比

#### <売上高>

国内売上高: 前年同期に大型施設工事があった反動により減少。

海外売上高: 北米・欧州堅調も、中国・アセアンが現地在庫調整より減少。

#### <営業利益>

減収による粗利益の減少あるものの、前年にあった一時的要因がなくなったことなどにより利益率 改善。販管費の削減もあり△2億円。

### ■計画比

国内売上が未達となったものの、収益はほぼ計画通り。

1. 2019年12月期 第1四半期  
業績の概要



2019年12月期 第1四半期 決算説明会

(単位: 億円、%)

	18/12期		19/12期		前年同期比	計画比
	1Q実績	比率	1Q実績	比率		
売上高	368	100.0	333	100.0	△35	△14
(国内)	284	77.1	254	76.2	△30	△20
(海外)	84	22.9	79	23.8	△5	+6
営業利益	△6	△1.6	△8	△2.2	△2	±0
経常利益	△9	△2.5	△11	△3.3	△2	△1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△3	△0.9	△4	△1.4	△1	△1
為替レート (円)	米ドル	110.1	110.5		+0.4	+2.5
	ユーロ	134.3	126.3		△8.0	+1.3

## (連結業績の概要)

### ■前年同期比

#### <売上高>

- ・35億円減収の333億円。
- ・国内は30億円、海外は5億円 それぞれ減収。

#### <収益面>

- ・第1四半期は不需要期であることから営業利益以下の各利益段階で損失を計上。営業利益以下いずれも減益。

### ■計画比

- ・売上高は国内が未達、海外は過達。営業利益以下はほぼ計画通り。

前年同期比  
△30億円

作業機、部品、修理収入は引続き堅調  
施設工事は前年にあった大型工事がなくなったことにより減収

(単位:億円)

		18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	前年同期比		計画比	
				備考			
農機 関連	農機 製品	整地機	72	67	△5	トラクタ:△4	△7
		栽培機	22	22	±0		△2
		収穫調製機	28	28	±0		±0
		小計	122	117	△5		△9
	作業機 部品 修理収入	作業機	49	49	±0		△2
		部品	27	28	+1		△1
		修理収入	10	10	±0		△1
		小計	86	87	+1		△4
	計		208	204	△4		△13
	施設工事		27	6	△21		△3
その他農業関連		49	44	△5		△4	
合計		284	254	△30		△20	



(国内売上高:254億円)

■前年同期比:△30億円

- ・施設工事で、前年同期にあった大型工事がなくなったことにより△21億円。
- ・作業機、部品、修理収入は引き続き堅調に推移。

■計画比:△20億円

- ・農機製品で9億円未達。施設工事の完工遅れも影響。

前年同期比  
△5億円

北米、欧州は引続き堅調  
中国やアセアンでの現地在庫調整により減収

(単位:億円)

	18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	前年同期比		計画比
				備考	
北米	25	28	+ 3	トラクタ: +3	△ 2
欧州	25	24	△ 1		+ 5
中国	7	0	△ 7	現地在庫調整 田植機: △6	△ 1
アセアン	10	6	△ 4	タイでの現地在庫調整 トラクタ: △3	+ 2
その他	9	11	+ 2	韓国: +2	+ 1
製品計	76	69	△ 7		+ 5
部品その他	8	10	+ 2		+ 1
連結売上高合計	84	79	△ 5		+ 6



(海外売上高:79億円)

■前年同期比: △5億円

- ・北米、欧州は堅調。
- ・中国、アセアンは現地在庫調整により、中国△7億円、アセアン△4億円。

■計画比: +6億円

- ・欧州のプレシーズンでの販売増等により計画を上回って推移。

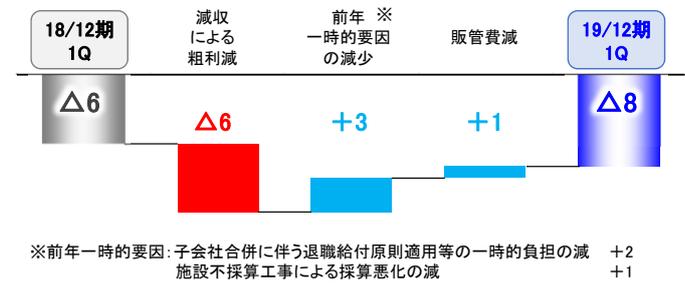
前年同期比  
△2億円

前期一時的要因がなくなったこと等により利益率改善  
減収による粗利減で前年同期比減益

(単位:億円、%)

	18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	前年 同期比	計画比
売上高	368	333	△35	△14
売上総利益	99	96	△3	△4
粗利率	27.0%	28.9%	+1.9%	+0.1%
販管費	105	104	△1	△4
人件費	62	61	△1	△2
その他経費	43	43	±0	△2
営業利益	△6	△8	△2	±0

【営業利益増減内訳(前年同期比)】



【為替影響(億円)】

売上	原価	販管費	営業利益
△1	△1	-	±0

(営業利益: △8億円)

■前年同期比: △2億円

- ・減収による粗利益の減少があった一方、前年の一時的要因が無くなったこと等による利益率改善や販管費の削減などにより2億円減益。

■計画比: ±0億円

- ・売上未達による粗利益のマイナスを販管費の削減によりカバーし計画通り。

経常利益  
前年同期比  
△2億円

持分法投資損失や為替差損の計上等により減益

(単位:億円)

	18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	前年 同期比	計画比
営業利益	△6	△8	△2	±0
金融収支	△2	△2	±0	±0
その他営業外損益	△1	△1	±0	△1
経常利益	△9	△11	△2	△1
特別利益	0	0	±0	±0
特別損失	0	0	±0	±0
税前提利益	△9	△11	△2	△1
税、税調整額	6	7	+1	±0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△3	△4	△1	△1

営業外損益増減内訳(前年同期比)

為替差損益	+2億円
持分法投資損益	△2億円

【持分法投資損益増減】

(単位:億円)

18/12期	19/12期	増減
△2	△4	△2

## (経常利益、四半期純利益)

経常利益: △11億円

### ■前年同期比: △2億円

為替差損益の改善や中国東風井関の最終赤字による持分法投資損益の計上などによる。

### ■計画比: △1億円

・ほぼ計画通りながら小幅未達。

前年  
同期末比

売上高減少により売上債権は減少、棚卸資産増加  
一方、設備投資、関係会社向け貸付金の増加により有利子負債増加

(単位:億円)

	18/3月末	19/3月末	増減		18/3月末	19/3月末	増減
現預金	84	81	△3	仕入債務	444	437	△7
売上債権	324	280	△44	有利子負債	749	769	+20
棚卸資産	565	582	+17	(内借入金)	(683)	(690)	(+7)
その他流動資産	26	58	+32	(内リース債務)	(66)	(79)	(+13)
(内短期貸付金)	(0)	(28)	(+28)	その他負債	218	221	+3
流動資産計	999	1,001	+2	負債計	1,411	1,427	+16
有形固定資産	956	975	+19	純資産	691	679	△12
無形固定資産	11	12	+1	(利益剰余金)	(155)	(158)	(+3)
投資その他資産	136	118	△18	(有価証券評価差額金)	(12)	(5)	(△7)
(内投資有価証券、出資金)	(88)	(72)	(△16)	(為替換算調整勘定)	(10)	(9)	(△1)
固定資産計	1,103	1,105	+2	負債・純資産計	2,102	2,106	+4
資産合計	2,102	2,106	+4				

## (バランスシート)

- ・売上高の減少等により売上債権は44億円減少。一方、棚卸資産は17億円増加。見合いで仕入債務が7億円減少。
- ・その他流動資産は、関連会社への貸付金増等により増加。製造子会社での設備投資により、有形固定資産が増加。これらを有利子負債20億円の増加によりまかなった。
- ・投資その他資産は、株式時価評価の下落による投資有価証券・出資金の減少などにより18億円減少。見合いで純資産は、有価証券評価差額金が減少、利益剰余金の増加はあるものの合計で12億円減少。

## 2. 国内外市場の動向



2019年12月期 第1四半期 決算説明会

## 国内農機需要

### 国内農機需要は横ばい

■ 農機需要〔業界出荷〕(主要9機種・移動年計)



※主要9機種:トラクター、コンバイン、田植機、耕耘機、乾燥機、籾摺機、バインダー、ハーベスター、トリートメント  
出所:日農工出荷統計より当社推計

## (国内農機需要)

- ・国内農機需要は横ばいで推移。

### <2019年>

- ・10月に消費増税が予定されているが、農家の大規模化が加速し、計画的に投資する農家が増えている傾向、増税幅が2%にとどまること、また、新たな排ガス規制も無いことから、2014年の増税時ほど影響はないと考えている。
- ・多少の前寄せ需要は発生すると想定しているが、10～12月の反動減により、年間では微増程度と見ている。

国内  
農機需要

当社実売は前年並み

主要9機種 前年伸長率(金額、移動年計) ※当社推計

(単位:%)

		2017/3月	2018/3月	2019/3月
業 界	(出荷金額)	101%	100%	104%
当 社	(実売金額)	91%	101%	99%

※主要9機種:トラクター、コンバイン、田植機、耕耘機、乾燥機、糞摺機、バインダー、ハーベスター、トリートメント

## (国内農機出荷と当社実売状況)

### <主要9機種前年伸長率(金額、移動年計)>

- ・業界全体:前年比104%
- ・当社実売:前年比99%

スマート農業

水稲作におけるスマート農業機械化一貫体系の提供へ  
生育管理・生育診断商品の取扱いを開始

《当社のスマート農機》



※研究中的のものも含む

取扱い開始《生育管理・生育診断商品》



- 水稲用 水位・水温センサー  
 》スマホ、パソコンで遠隔地から水位、水温を監視
- 多機能型自動給水機  
 》自動で給水栓を開閉。  
 水管理作業省力化、節水効果
- 葉色解析クラウドサービス  
 》ドローン画像を解析し農地の状況を記録  
 毎日の葉色の確認を容易にし、きめ細やかな  
 生育管理を実現
- 営農支援サービス  
 》人工衛星やドローン画像を解析し生育状況を診断  
 たんぱく含有率や籾水分率等を把握

(オープンイノベーション体制)

## ■ 未来投資戦略2018

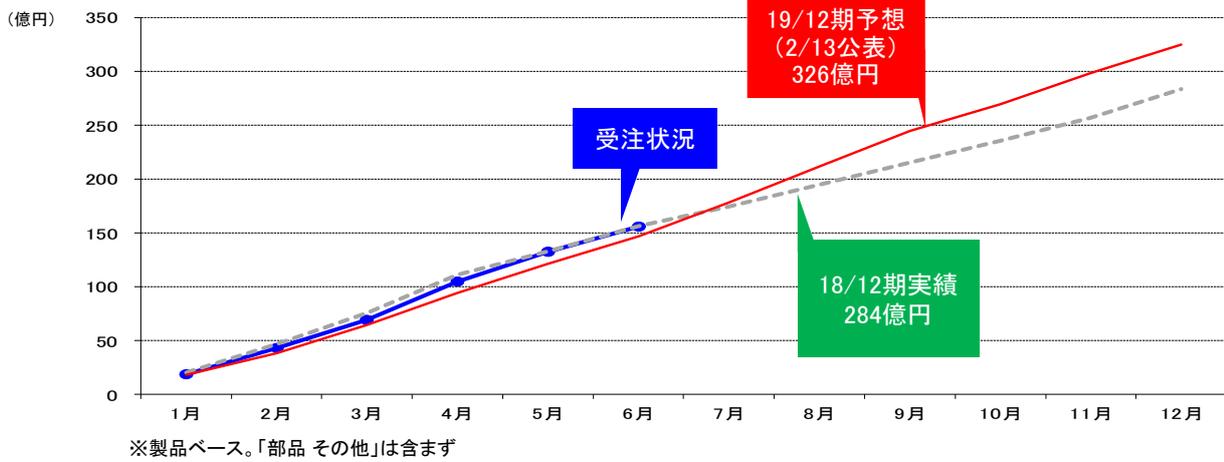
- ・スマート農林水産業の実現に向けて、  
 「2025年までに担い手農家のほぼすべてがデータを活用した農業を実践」

## ■ 当社取組み

- ・新たに各企業との連携にて生育管理、生育診断商品を取り扱い開始。  
 水稲作におけるスマート農業機械化一貫体系を一括してお客さまに提案  
 することが可能に。  
 これまで以上に、農業経営の効率化、生産性向上に貢献。

海外  
受注状況

ほぼ計画通りに推移



## (海外製品売上の直近状況)

＜6月までの受注状況＞

- ・ほぼ計画通りに推移。

北米

AGCO社実売はコンパクト、ユーティリティともに市場を上回って推移  
 当社受注もAGCO社の好調な実売を受け、コンパクトを中心に堅調

## 1. 市場の動向

(単位:千台、%)

区分(PTO馬力)	40HP以下 (コンパクト)	40~100HP (ユーティリティ)	100HP以上
2018年1~3月	29	13	4
2019年1~3月	31	12	4
増減率	109%	97%	94%

(出所: AEM統計)

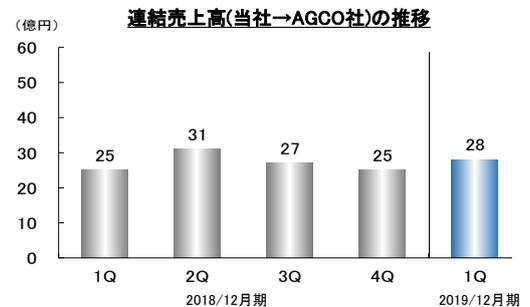
## 2. AGCO社(OEM先)の状況

実売台数(19/1~3月)

- コンパクト : 前年同期比 117%
- ユーティリティ : 前年同期比 100%

## 3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(19/1~6月) : 前年同期比 113%



## (北米市場の動向)

### <市場動向(2019年1~3月)>

- ・ユーティリティトラクタクラス: 前年同期比97%
- ・コンパクトトラクタクラス: 前年同期比109%

### <AGCO社の状況(2019年1~3月)>

- ・中小型市場での競争が激化する中、当社主力のコンパクトクラスを中心に、市場の伸びを上回って推移。

### <当社のお荷・受注状況(2019年1~6月)>

- ・前年同期比: 113%
- ・AGCO社の実売に連動し、コンパクトトラクタの受注が増加。

欧州

景観整備市場は天候要因が業績にフォロー  
 当社受注は下期モデルチェンジを控え前年同期比減少も計画通り

## 1. 市場の動向

景観整備市場は、降雪量の増加により、ドイツ、北欧を中心にウインタービジネスが好調。また、春先の天候は良好で芝刈機需要に期待。一方、ユーロ圏全体の経済回復ペースは鈍化。英国のEU離脱問題もあり先行きに注視。

## 2. 現地の実売状況

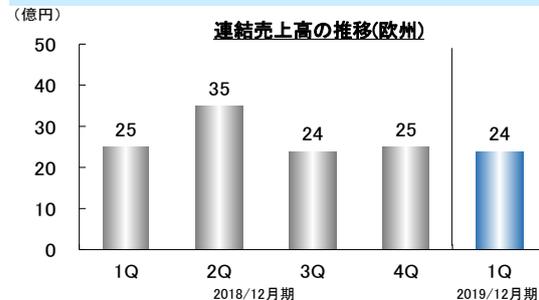
### ▶ 実売(19/1-3月)

・現地販売代理店 : 前年同期比 110%  
 (台数ベース)

## 3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(19/1-6月) : 前年同期比 77%  
 : 計画比 100%

・モデルチェンジ(トラクタ)を控えた出荷抑制調整が影響するも、現地実売好調、新商品投入により下期挽回見込み



## (欧州市場の状況)

### <市場動向>

・景観整備市場は、ドイツ・北欧を中心にウインタービジネスが好調だったことに加え、春先の天候は良好で堅調に推移。

### <現地の実売状況(1~3月)>

・欧州販売代理店: 前年同期比110%

### <当社のお荷・受注状況(1~3月)>

・前年同期比: 77%

・計画比: 100%

・下期にトラクタのモデルチェンジを控え、出荷を抑えたことにより前年同期比減少も計画通り。

・現地実売が好調なことに加え、モデルチェンジ前機の消化も順調に進んでおり、下期挽回を見込んでいる。

タイ

他社販売金融拡大などにより販売競争激化

## 1. 市場の動向

ユーザー向け頭金ゼロなどの販売促進が進み競争激化。

## 2. 現地販売会社[IST Farm Machinery]の状況

【三菱商事80%、当社20%出資】

現地実売台数

(アセアン戦略トラクタ、19/1-3月) : 前年同期比 88%

## 3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(19/1-6月) : 在庫調整により大幅減  
 ・当社はIST社の仕入抑制による大幅減も、流通在庫の消化は進む



## (アセアン タイの状況)

### <市場動向>

- ・農作物価格は安定傾向にあるが、農機購買マインドは本格的に回復していないと考えている。
- ・頭金ゼロといったファイナンスなどの競合他社の動きが急で販売競争は激化。需要を喚起しているとみている。

### <現地実売状況(2019年1~3月)>

- ・ISTファームマシナリー : 前年同期比88%

### <当社の出荷・受注状況(1~3月)>

- ・現地ISTファームマシナリーの在庫調整により、前年同期比大幅に減少しているが、流通在庫は着実に消化が進む。

ISTファームマシナリーによる販売促進の強化とともに、営業・サポートを厚くし踊り場からの脱却を図る。

## アセアン その他

ISEKIタイランドによる営業・サービス体制の強化、  
その他地域でのパートナーとの連携により販売拡大を図る

### ■インドネシア

#### ➢ 市場動向

2015年から続く政府主導の機械化推進(政府入札)。  
2019年も政府入札は継続も大統領選挙で様子見。  
選挙も終了し現政権継続の方向。下期の入札に期待。

#### ➢ 当社状況

4月までは例年並みの受注を獲得。  
販売代理店の営業・サービス支援を強化。今後のマール  
ケット拡大を想定し、ISEKIタイランドをベースとした補修部品供  
給体制構築に着手

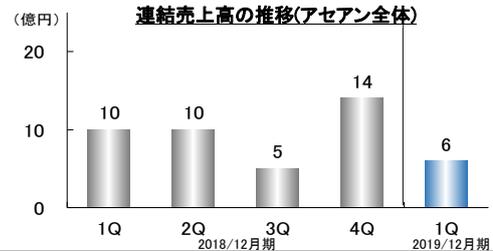
### ■その他(ミャンマー等)

#### ➢ 市場動向

機械化進展により需要が見込める。

#### ➢ 当社状況

ISTおよびAGCO社が持つ販売網を活用し、  
アセアンでの販売拡大を目指す。



## (アセアン その他の地域の状況)

### <インドネシア>

- ・政府主導の入札による農機普及の後押しが継続。
- ・4月の大統領選挙も終了。現政権継続の方向となっており、下期の入札に期待。
- ・当社は、1~4月までの入札では例年並みに受注を獲得。
- ・ISEKIタイランドによる販売代理店の営業サービス支援を強化。特に、今後のマーケット拡大も想定し着手した補修部品供給体制整備を図っていく。

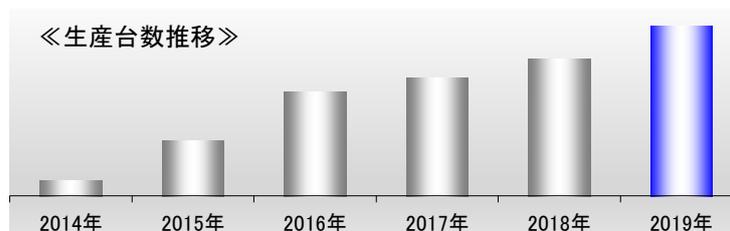
### <ミャンマー等周辺国>

- ・農業の機械化進展に向けて需要増加が見込める。
- ・ISTファームマシナリーおよびAGCO社が持つ既存の販売網を活用し、アセアンでの販売拡大を図る。

PT.井関  
インドネシア1～3月の生産台数、営業利益は計画通り  
海外で稼ぐためのベース基地として収益体質強化を一層図る

(単位:台、億円)

	2014年 実績	2015年 実績	2016年 実績	2017年 実績	2018年 実績	2019年 計画	2019年 1-3月
生産台数	1,100	3,900	7,300	8,400	9,700	12,000	3,135
営業利益	△3	△4	△3	3	1	3	0.5



(インドネシア生産子会社 PT.井関インドネシア)

2019年1～3月:営業利益は黒字を確保。

- ・現調化等による原価低減を図るとともに、生産性改善、生産管理体制強化を進めてきた結果、黒字が定着。
- ・一昨年来進めていた、増産に向けた体制作りも整ってきており、今後、海外で稼ぐ為のベース基地として、インドネシア事業の収益体質強化を一層図る。

中国

米麦買入れ価格は低水準で推移しており、  
市場の回復にはまだ時間を要す

### 1. 中央政府補助金

(単位: 億元)

2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
215	217.5	238	238	237	186	186	180

### 3. 東風井関の状況

➤ 中国国内販売は、田植機が大幅減

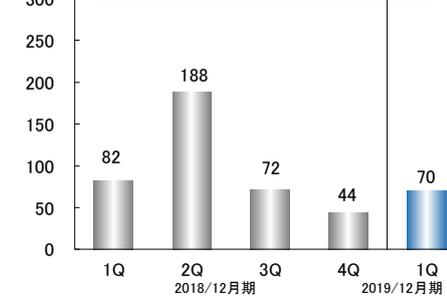
### 2. 2019年1~3月農機業界の動向(前期比、台数)

(単位: %)

	業界※
田植機(乗用)	△ 30%
コンバイン(汎用、自脱)	+ 2%
トラクタ(大中型)	+ 2%

※(出所)中国農業機械工業協会

(百万円) 東風井関売上高推移(現地通貨ベース)



## (中国市場の動向)

### <市場動向>

- ・中央政府の2019年補助金は、若干減少ながら前年並みの180億元。
- ・米麦買入れ価格は低水準で推移しており、市場の回復にはまだ時間を要すものとみている。
- ・農機業界(1~3月): 乗用田植機は約30%の減少。  
コンバイン、トラクタはほぼ前年並み。

### <東風井関の状況(2019年1~3月)>

- ・市場の冷え込みを受け主力の田植機が大幅減少。
- 東風サイドと従来以上に一体となって、新商品開発から製造、販売、アフターサービスに至る体制の強化を図っている。

### 3. 2019年12月期 業績予想



2019年12月期 第1四半期 決算説明会

業績  
予想

当初予想から変更なし

## 連結業績予想

(単位:億円)

	18/12期 実績		19/12期 予想 (2月13日公表)		前期比	
	2Q累計	通期	2Q累計	通期	2Q累計	通期
売上高	822	1,560	818	1,640	△ 4	+ 80
営業利益	22	32	19	40	△ 3	+ 8
経常利益	18	26	16	26	△ 2	± 0
親会社株主に帰属する 当期純利益	16	11	14	16	△ 2	+ 5

※19/12期想定為替レート  
米ドル108円(継続)、ユーロ125円(継続)

## 為替感応度(営業利益、通期計画ベース)

	19/12期	(単位:百万円)
米ドル	7	
ユーロ	15	

## (2019年12月期連結業績予想)

- ・第1四半期は、不需要期である国内売上が計画を下回ったが、海外売上は若干のプラス。収益面では計画通りに進捗しているため、第2四半期及び通期の業績予想は修正なし。
- ・想定為替レート; 1米ドル108円(継続)、1ユーロ125円(継続)  
為替感応度(営業利益ベース): 米ドル7百万円、ユーロ15百万円

## 4. トピックス



2019年12月期 第1四半期 決算説明会

5月11～12日開催、於) 新潟市

(1) 全体テーマ

「農業・食品分野の持続的可能性に向けて  
－ 新たな課題とグッドプラクティス －

(2) 主要論点

- ① 次世代の農業を担い革新を起こす人づくりと新技術
- ② フードバリューチェーン全体に着目した農家等の収益向上策等
- ③ SDGsの達成に向けた、関係者の対応方法



**持続可能な農業へ ➡ 「スマート農業」**

が課題の解決策の一つとして議論に

## (G20新潟農業大臣会合)

- ・5月11～12日に新潟で開催された。
- ・「持続可能な農業への課題」の解決策の一つとして、「スマート農業」が挙げられ、各国の大臣からも注目された。

## ◆スマート農業紹介

## 【現地視察】

- ✓ ロボットトラクタ実演
- ✓ 自動運転田植機実演（農研機構※）
- ✓ 可変施肥田植機展示
- ✓ 企業間連携実証プロジェクト紹介
- ✓ ドローンによる農薬散布実演 等

※農研機構：農業技術革新工学センター



## ◆農業女子プロジェクト紹介



## (G20新潟農業大臣会合)

- ・12日午後の視察にて、新潟市が展開する国家戦略特区にてスマート農業を紹介。

当社のロボットトラクタや農研機構が開発中の自動運転田植機などのデモンストレーション、

当社可変施肥田植機や企業間連携実証プロジェクトにおいて新潟市と連携する企業の取組み等が紹介された。

- ・G20の会場では、農業女子プロジェクトの取組みも紹介された。

当社はトラクタなど農業女子とのコラボ商品等を展示・紹介した。

## 13回連続最高ランクの格付取得

株式会社日本政策投資銀行より、13回連続で最高ランクの格付  
「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価



### <今回の格付での評価ポイント>

- 1) 事業を通じた価値創造プロセスを情報開示の潮流を踏まえ開示している
- 2) サステナブルなサプライチェーン構築に向けた取り組み高度化に努めている
- 3) 新たなソリューションの提供により、国内外の農業従事者支援を継続している

### (DBJ環境格付融資)

- ・日本政策投資銀行が行っている「DBJ環境格付」において、13回連続で最高ランクの格付。
- ・「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価され、「DBJ環境格付」に基づく融資を受けた。

ポイント: 農業の構造変化に対し、新たなソリューションの提供により、国内外の農業従事者支援を継続

## 農業の構造変化

- ・ 農業就業人口の減少
- ・ 大規模化
- ・ 作付け転換 等



## 新たなソリューション提供

- ・ スマート農機  
ロボットトラクタ、収量コンバイン  
直進アシスト・可変施肥田植機 等
- ・ 営農ソフト  
稲作機械化一貫体系の提案  
スマート農業普及に向けた提案・サポート
- ・ GAP認証取得支援 等

\*GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理)  
農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の  
持続可能性を確保するための生産工程管理の取組み

### (評価ポイントの事例)

農業就業人口の減少、大規模化等の農業の構造変化に対し、

- ・スマート農機、
- ・稲作機械化一貫体系やスマート農業の普及に向けた提案・サポート、
- ・GAP の認証取得支援 等

当社が積極的に取り組んでいる事項が持続可能な農業につながる。  
と評価をいただいた。

今後も事業を通じて持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいく。

